



埼玉の社叢

騎西町玉敷神社社叢ふるさとの森

騎西五五二

水田地帯が広がる騎西町の中心地騎西に鎮座する玉敷神社は式内社として、かつては正能村にあったが、天正二年に上杉謙信の焼き討ちに遭い、私市城の大手門前に遷されたが、元和四年ころ現在地に遷された。その後も騎西領四八ヶ村の総鎮守として信仰されてきた。

当社の社叢（一・五六杉）は、昭和五十七年三月、県の指定を受けた。林相はシラカシ、スタジイを中心とした当地方の極相林を示す。その他の植生はスギ、ヒノキ、イヌシデ以外、ヤブツバキ、サカキ、クスノキ、ネズミモチなど大部分が常緑広葉樹で占められている。

また、社殿の西側には、樹齢五百年と推定される二本の大銀杏があり、約三〇メートルの樹高があることから、古くからこのあたりの人々は当社の銀杏が色づくのを見て、麦播きの時季が来たことを知ったという。昭和五〇年には「町の木」に制定され、同五十五年には町指定天然記念物に指定されている。このほか、樹齢四百年と推定される県指定天然記念物の大藤がある。